我が母校白保小学校の思い出

石垣栄一

はじめに

我が白保小学校は、明治23年簡易小学校として設置以来、今年6月で創立130周年を迎えた。

令和3年1月31日記念式典、祝賀会を開催する旨の通知を受けた。記念式典に向けて、村を挙げ、創立130周年記念事業期成会が設立され、佳節を祝う事業を推進中で、卒業生は一口3千円以上の寄付金の協力依頼もあり、記念事業の完遂に協力することを決意した。

この世に生を受け、イモ、はだしの苦しい時代を乗り越えた団塊世代、古希も過ぎた。母校の創立130年を記念すべき節目に、小学校の頃の思い出を振り返ってみた。

母校創立明治23年頃、小学校在校中へタイムスリップ

母校設立時の明治23年の頃の歴史をひもとくに、国内では、府県制の導入、第一回衆議院議員選挙施行、教育勅語発布、県内では、那覇測候所で気象観測を開始、入れ墨(分身)習俗禁止、各小学校に御真影下賜　教育勅語奉読式が挙行されている。

私は、昭和29年に小学校入学、昭和35年卒業した。

小学校3年には、ミルク給食、6年になるとミルク、パン給食が始まり、栄養失調気味の我々にとっては大きな救いとなった。

小学校4年の時にはB円が廃止されドルへの切り替えがあった、母と共に、母の、わずかな蓄えを切り替えに同道し、初めて見るきらきら光る25セント、50セント硬貨、そして、ドルの価値観に戸惑い、当時、千ドルでは家屋が建てられた時代、隔世の感を覚える。

最大の悲しみを乗り越えることができた。母は、生前、しつけは厳しく、夕方には、3歳下の次男弟を交えての家庭学習を欠かさず、読み書きを徹底して、教えられた。

4年生の頃、五か条の御誓分を覚えてきない、優しく、時には厳しい、母の教えが懐かしい思い出となっている。

母は、学校行事にも積極的で、先生を我が家に下宿させ、コミュニケーションを図るなど、今でいう教育ママの存在であった。

教育に熱心だった母

母は、私が小学校5年の時に、37歳の若さで病死、兄弟3人、11歳年下の末弟わずか1歳の誕生日を迎えたばかりであった。

親戚、村の方々、先生たちの支援で、人生さいとの宿題があり、母の指導を受け、大声を張り上げ、何度も復唱したが、なかなか覚えられずにいた、そばで聞いていた弟は、私より先に覚えたこと、本読みで西表島の読み方がわからず母を落胆させたこと、ホヤランプの下で、そうめん箱をテーブル代わりに囲

母校のシンボル、校庭のアコウ、ガジュマル、デイゴの三本木

適切な管理のもと、校庭に3本の巨樹が並列して、生育しており、学校では、強風に負けないアコウ～我慢強さ　大地に根を張るガジュマル～力強さ　真っ赤に咲くデイゴ～情熱と美しさ　大きな枝を伸ばし、白保っ子を温かく、優しく見守り育んでいると紹介している。

我々も、夏の盛り、巨樹の木陰での青空教室、放課後は友と共に木登りして遊んだものである。

三本木生い立ちを検証するに、我が伯父石垣宗良たちが白良尋常高等小学校を昭和7年に卒業した記念に植樹した記念木であると、本人の証言が、昭和59年9月27日の毎日新聞に掲載されている。

スポーツ王国白保

伯父、石垣宗良の立心伝に目を通すと、1955年第19回八重山郡陸上競技大会で白保3連覇達成の懐かしい先輩たちの雄姿の記念写真が掲載され、宗良伯父は部落副会長で、極東白保の健児らが八重山制覇の気に燃えて三連勝の栄冠ここにありと記載された貴重な記録があり、白保チームを統率した監督は、我が父の従弟、石垣吉雄選手であった。三連覇の時、私は小学校2年で、父の馬に乗って、大会を見に行った。優勝の瞬間、村の人たちが狂喜乱舞していた光景をはっきりと覚えている。

また、競技観戦よりも昼食には、市内の新冨食堂のおいしいそばを食べることができ、そばの味は忘れられない。

陸上競技のほか、駅伝、沖縄角力、自転車競技等などでも優勝するなど、夕方になると、小学校グラウンドでは、老いも若きも練習に励み、村民のスポーツへの熱意、努力が功を奏し、スポーツ王国白保を築き、実にあっぱれ、懐かしい光景が目に浮かぶ。

教育は偉大なり

先人たちの努力によって、創立130年を迎えた我が学び舎、多くの卒業生を送り、米国留学の哲学者、国費留学の医学博士、郷土民俗、文化に造詣深き民俗学者、東大大学院を修了、水の研究で世界的評価を受けた学者、元県教育長、プロ野球で活躍の一億円プレーヤー、伝統芸能無形文化財保持者、ミュージシャンなど多士済々、教育の偉大さは計り知れない。

結びに

子供の教育は、子どもたちをよく視察し、実態をつかみ、その実態を良き方向に変える、褒め称え、注意すること8対2の原則というと教育者の提言に触れたことがある。

心豊かな人材の育成は、村の栄の礎なり、我が母校の益々の発展、創立130年記念事業の成功を祈念する。

（沖縄市在住）